愛媛県

愛媛果研ニュース

No.40　令和4年9月

2022 年 2 月 24 日、ロシアがウクライナ軍事侵攻を開始し、情勢に応じてそれなりに釣り合いがとれていたかに見えた世界の食料地図が大きく動きました。両国とも義務教育で学ぶほどの世界の穀倉地帯を持ち、小麦輸出量は世界の 3 割、トウモロコシは 2 割を占める農業大国です。また、日本は肥料原料のほとんどを海外に依存しており、海外市況の影響を受けます。ロシアは肥料原料の生産・輸出大国でもあり、円安とも合わせ日本の食料・肥料・燃料等の供給に多大な影響を及ぼしています。モノがあっても自国優先供給の考えになるのは致し方のないことかもしれず、食料自給率向上の重要性を改めて感じるこの頃です。

一方、県内産地では西日本豪雨災害から 4 年が経過し、「原形復旧」、「改良復旧」が順次完了して営農が再開され、早期成園化に向けた管理がなされています。被害の大きかった宇和島市でも全園早期完成に向け急ピッチで工事が推進されており、未収益期間の短縮を目的に完成予定にあわせた大苗育苗にも取り組まれています。さらに災害に強く生産性の高い園地として再生を目指す「再編復旧」についても県下 4 地区で取組みが進められ、創造的復興が進められているところです。

さて、果試ニュース No.40 のテーマは、①キウイフルーツ安定生産の要である花粉の県内自給率を高め、愛媛県キウイ産業の盤石化を目的に国内初の花粉供給産地化を図るため「キウイフルーツの雄花採取における負担軽減のための整枝法の検討」、②県オリジナル品種をはじめ高級かんきつで高品質安定生産に欠かせない「かんきつかいよう病の銅剤防除体系の検討」、及び③高齢化や担い手不足対策、軽労働化推進に力を発揮する「アシストスーツによる軽労働化実証」の成果をご紹介します。一読のうえ今後の果樹生産の参考にしていただければと思います。

果樹研究センター　みかん研究所長　二宮泰造